

■木村黙老 高松藩家老。藩政家、文人。塩田開発、糖業振興などで藩財政を再建しながら、貴重な日記を遺した。

きむらもくろう

解体新書・1774= 讃岐国高松城下の屋敷で、宇多源氏の系譜で松平家に仕え高松藩家老となった木村季明の孫に生まれる。
黄表紙始・1775= 1歳：実父明辰が事故で死去したため、叔父の明矩が家督を相続し、

・・・・・・1780= 6歳：叔父明矩の養嗣子となる。

蘭学階梯・1783= 9歳：

田沼意次失脚1786=12歳：

藩学講道館に学び、剣法も究めた。

アキマン来日・1792=18歳：

松平定信引退1793=19歳：結婚するも、まもなく離婚。

のち、再婚しては、離婚を繰り返し、子は夭折するなど、恵まれない家庭生活を送りながら、

古事記伝・1798=24歳：この頃、剣法直真影流兵法の目録を授けられる。

蝦夷地直轄始1799=25歳：この年、藩主松平頼儀が西ノ丸に学問所に設ける。

本居宣長没・1801=27歳：西ノ丸学問所入学、

青洲麻酔手術1805=31歳：成績優秀で修了して藩主から褒賞を貰い、

バツリ報復・1806=32歳：小姓役に取り立てられて、藩主の近侍となり、

その博識は藩の内外にも広まった。

・・・・・・1810=36歳：

浮世床・・・・1813=39歳：養父が死去して家督を相続するも、生活不能な養父実子の長男はじめ、経済的遺された十人もの子の面倒を見なければならず、精神的・経済的に言葉に言い尽くせない苦しみを味わう。

・・・・・・1815=41歳：藩主松平頼儀が養嗣子として水戸から頼恕を迎えた際、傳役を命じられ、江戸屋敷詰となる。

頼恕と生年・幼名が同じで、ともに養嗣子であったことから、忠勤に励んで深く信頼され、

水野忠成老中1818=44歳：

群書類従刊・1819=45歳：

蝦夷地直轄終1821=47歳：頼儀が病気で隠退、頼恕が第九代藩主に就くと、従って高松に戻り、

英船浦賀来航1822=48歳：書院番頭から、

シボク来日・1823=49歳：*家老へと栄進する。当時、藩の財政が衰弱していたが、

・・・・・・1826=52歳：*久米通賢の建議を容れて、坂出の塩田開発に着手、

日本外史・1827=53歳：この頃から、日々思いついたことを書き留めるようになり、「聞まゝの記」として製本、

シボク事件・1828=54歳：

シボク追放・1829=55歳：*広大な塩田が完成、さらに拡大して莫大な利益を上げて行く。この年、江戸屋敷詰を命じられると、やはり通賢の建議によって砂糖為替の法を創設し、讃岐の糖業を大いに振興させる。

更に同僚の寛速水と謀り、溜池を改修して十ヶ村の灌漑用水を確保、永富池と名づけるなどして、十数年を経て遂に藩庫を充実させるなどの経済政策で、大きな功績をあげる一方、滝沢馬琴との交友を深めて行き、馬琴の眼病悪化に際しては、藩奥医師手塚家に伝わる秘薬を取り寄せて届けるなどする。そのこともあって戯作小説や歌舞伎についての記録・考証・史的研究にも力を入れた。

滑稽+人情本 1835=61歳：江戸家老から国家老に転じて帰郷、旅日記「帰郷日記」を残す。

大塩平八郎乱1837=63歳：

一方、学問は和漢を兼ね詩文・和歌・狂歌・戯作・画に力を入れ、国史編纂のため史局考信閣を設け、また藩学講道館に大聖廟を新設して聖像を安置し、毎年春秋秩奥の礼を行うなど文教に関する事蹟も多い。和漢の学芸に通じていた反面、当時の俗文学にも精通していた。

阿部正弘首座1845=71歳：

ビツル来航・1846=72歳：*この頃まで、20年間に八十三巻もの「聞まゝの記」を出し、極めて多様な事柄を記録し続けた。

・・・・・・1848=74歳：この年、馬琴が死去。

万次郎帰国・1852=78歳：*家老職を辞任して隠退。

ペリー来航・1853=79歳：

安政大地震・1855=81歳：

松下村塾・1856=82歳：_没した。

ほかに、「海防録」「稗史外題鑑批評」「京撰戯作者考」「江城朝儀式」「国字小説通」「談月亭藏書目録」「忠臣記」「島牛記」「随得抄録」「八犬伝黙老評」「平賀源内之伝」「本朝水滸伝を読む井批評」「黙老人後西遊記評」など。

「人づくり風土記(香川)」, 平凡社百科事典,